

## 追悼文

## 河村 武会員を偲ぶ

日本気象学会の理事として長きにわたり務められた河村 武会員が平成19 (2007) 年1月20日に逝去されました。享年77歳でした。生前、河村 武会員の日本気象学会ならびに気象学・気候学の発展への貢献が極めて大きいことを偲び、謹んで哀悼の意を表します。

河村 武会員は、昭和4 (1929) 年12月30日誕生されました。昭和28 (1953) 年、東京教育大学理学部地理学科を卒業後、同大学大学院博士課程を終了され、昭和33 (1958) 年、東京教育大学理学部助手に任命されました。昭和35 (1960) 年には気象庁に出向となり、札幌管区気象台ついで東京管区気象台において気象業務に携わられました。その間、昭和37 (1962) 年には、「本邦における都市温度の研究」によって教育大学から理学博士の学位を授与されています。その後、昭和44 (1969) 年、気象庁長官秘書に任命されました。後年、「夢にも考えていなかったので戸惑いましたが…」と述べられています（「吉武素二先生を偲ぶ」, 文集刊行委員会, 平成12年), その任を見事に果たされて、本庁予報部に移られました。昭和48 (1973) 年には、気象研究所に異動となり、局地気象や大気汚染問題の研究に没頭されました。

河村 武会員は、昭和52 (1977) 年、文部省に出向となり、筑波大学地球科学系教授に着任されました。その後、環境科学研究科長および水理実験センター長を歴任されましたが、常に、魅力ある気候学・気象学の講義を行われる一方、大気汚染を含む環境問題の研究に尽力されました。河村 武会員は、環境問題について幅広い知識と深い専門性を両立させることを、研究および指導の方針とされました。17年間におよぶ教授在籍の間に、有能な多数の卒業生を世に送りだされましたが、平成6 (1994) 年、皆さん方に惜しまれながら筑波大学を退任されました。そして筑波大学名誉教授の称号が贈られました。

河村 武会員は、気象庁および筑波大学を通じ、局地気候や環境問題に関する論文や専門書を数多く著されました。河村 武会員と筆者とは同じ時期、同じ気象研究所応用気象研究部に勤めていました。毎日の研



究生活のなかで、河村 武会員の文献整理の見事なことや総合報告のまとめの上手なことに、いつも感心していました。早くからヒートアイランドを含む都市気候や局地風に強い関心を持ち、この方面における先端的な仕事をしておられ、筆者はその先見性に感服したことでした。また、環境全般にわたる専門書の編集にあたっては、主題に最もふさわしい研究者たちと協力して指導的に全体を取りまとめ、標準的な参考書（あるいは教科書）を作り上げるという編集能力にも優れた才能をもっておられました。なかなか真似のできることではないと、感じ入ったことでした。

河村 武会員は日本気象学会の第17期（昭和47 (1972) 年）から第25期までの長きにわたって理事を努められたうえ、第26期には評議員をされていました。その間、河村 武会員は各方面で学会の発展のために貢献されましたが、特に、「天気」などの学会誌の編集について優れた才能を発揮されました。専門でない人たちにも分かりやすく、しかも内容を正確に余すことなく表現することの大切さを、常に主張され、また実行されていました。今なお、教訓として一層心掛けねばならないことと思われま。

環境のように各分野の緊密な協力を必要とする問題がますます多くなっている今日、広い知識と同時に深い専門性が求められています。ここに改めて河村 武会員の学会活動および研究活動に対する輝かしい業績を偲び、謹んでご冥福をお祈りいたします。

(日本気象協会 竹内清寿)